

京大本番レベル模試（06年10月）英語採点基準

2006年10月16日現在

全体的基準

*各問の基準として別記がない場合、次に従うものとする。

各小問は全体をいくつかの部分に分けて配点するが、各部分の減点は、配点を超えないものとする。

各部分につき、明らかに未完の解答は、その部分については、0点とする。

同一の誤りが複数回ある場合、減点は1回のみとする。

和訳問題（第1・2問）の追加基準

各小問の基準に別記がない場合、単語の単純な誤訳は、1つにつき**マイナス1点**。イディオム・文法・語法・構文の知識不足による誤訳は、1つにつき**マイナス2点**。文脈の把握ミスによる致命的な誤訳は、1つにつき**マイナス3点**を原則とする。

誤字・脱字は、1語につき**マイナス1点**。但し、句読点に関する誤りは、不問とする。

英文の1句（例えば＜前置詞＋名詞＞）の訳漏れは、1つにつき**マイナス3点**とする。

英訳問題（第3問）の追加基準

各小問の基準に別記がない場合、単語の単純な誤訳は、1つにつき**マイナス1点**。イディオム・文法・語法・構文の知識不足による誤訳は、1つにつき**マイナス2点**。但し、SOVの語順、動詞の欠如、従属接続詞や前置詞の後置など致命的な構文上の誤りは、1つにつき**マイナス3点**を原則とする。

スペルミスは、1語につき**マイナス1点**。なお、I didn't hadのようなものは文法ミスとして上記に従う。

文字の大小の誤り、コンマ・ピリオドの有無は、不問とする。

和文の1句（例えば＜名詞＋助詞＞）の訳漏れは、1つにつき**マイナス3点**とする。

リスニング問題（第4問）の追加基準

語句・表現は原文通りでなくても、ほぼ同意なら可とする。

原文と異なる内容は、核心部に関するものは**マイナス5点**（つまり得点0）、それ以外は1箇所につき**マイナス3点**。

文法・語法・構文の知識不足による誤りは、1つにつき**マイナス2点**。但し、主語・動詞を欠いた、いわゆる short answer も可とする。

スペルミスは、1語につき**マイナス1点**。なお、I didn't hadのようなものは文法ミスとして上記に従う。

文字の大小の誤り、コンマ・ピリオドの有無は、不問とする。

第1問

(1) (15点)

【設問】

Whether it is the Greeks or the Hebrews who invented individualism is a matter of some controversy, but there is no doubt that the Greeks viewed themselves as unique individuals, with distinctive attributes and goals. This would have been true at least by the time of Homer in the eighth or ninth century B.C.

【解答】

個人主義を考え出したのがギリシャ人なのか、それとも、ヘブライ人なのかということは、論争の多い問題であるが、ギリシャ人が、自らを一人一人が独自の存在であり、その人に固有の特質と目標があると考えていたことには疑念の余地がない。少なくとも、ホメロスが登場する紀元前8世紀ないし9世紀頃までには、こうした状況が成立していたと考えられる。

【基準】

部分	配点	備考
Whether ~ controversy	5点	Whether ~ individualism を主語に捉えてないものは、マイナス3点。 it is...who の強調構文を捉えてないものは、マイナス3点。 the Greeks[Hebrews]の the を「その」と訳出したものは、マイナス3点。 invent は「発明する」も可とする。
but ~ goals	5点	there is no doubt that を「～という疑いはない」としたものは、マイナス2点。 unique を、「ユニークな」や「珍しい (unusual)」の意味で訳したものは、マイナス2点。 with の意味や with 以下の修飾先を誤ったものは、マイナス3点。
This ~ century B.C.	5点	This は、「これ」も可とする。 would have been を、「～したであろうに」など、反実仮想に基づく仮定法・過去完了の帰結で訳したものは、マイナス3点。 in the eighth 以下を、「ホーマーの在世期間」以外の意味で訳出したものは、マイナス3点。

(2) (15点)

【設問】

Homer makes it clear that a man is defined almost as much by his ability to debate as by his prowess as a warrior. A commoner could challenge even a king and not only live to tell the tale, but occasionally sway an audience to his side.

【解答】

男の価値を決めるのは、戦士としての力量[勇敢さ]だけでなく、それとほとんど同様に、議論する力でもあると、ホメロス[ホーマー]は明確に述べている。平民は、たとえ相手が王であっても、異議を唱えることが許され、命を落とすことなく意見を述べるだけでなく、時には聴衆を味方につけることもできた。

【基準】

部分	配点	備考
Homer ~ warrior	7点	make it clear that の構文を捉えてないものは、マイナス3点。 as much A as B の構文を捉えていないものは、マイナス3点。
A commoner ~ side	8点	commoner は、「民間人、普通の人」なども可。 challenge は、「挑戦する」、「(王の)正当性を疑う」なども可。但し、「チャレンジする」は、マイナス2点。 live to tell the tale は、「生き延びて(後日談を語る)」なども可。不定詞を目的で訳したものや文脈に合わないものは、マイナス3点。

(3) (10点)

【設問】

As striking as the Greeks' freedom and individuality is their sense of curiosity about the world. Aristotle thought that curiosity was the uniquely defining property of human beings.

【解答】

ギリシャ人の自由と個性と並んで顕著なのが、世界に対するギリシャ人の好奇心である。アリストテレスは、好奇心こそが人間かどうかを一義的に[独自に]決定づける特性であると考えた。

【基準】

部分	配点	備考
As ~ world	5点	striking...is...sense の倒置構文を捉えていないものは、マイナス3点。

Aristotle ~ beings	5 点	the uniquely defining property の訳が文脈に合わないものは、マイナス 3 点。
-----------------------	-----	--

(4) (10 点)

【設問】

Leisure meant for the Greeks, among other things, the freedom to pursue knowledge.

The merchants of Athens were happy to send their sons to school so that they could indulge their curiosity.

【解答】

ギリシャ人にとって余暇と言えは、とりわけ、知識を追求する自由を指した。アテネの商人は、息子が自分の好奇心を満たすことができるようにと、喜んで学校にやったのである。

【基準】

部分	配点	備考
Leisure ~ knowledge	5 点	meant の目的語に freedom を捉えていないものは、マイナス 3 点。 Leisure を「レジャー」としたものは、マイナス 2 点。
The ~ curiosity	5 点	indulge の文脈に合わない訳は、マイナス 3 点。

第2問

(1) (15点)

【設問】

However, the correct answer is that no one has the faintest idea whether the next letter will be H or T. The reason is that H and T represent heads and tails in a sequence of coin tosses. Whatever has come before in the sequence, a fair coin always has a 50% chance of coming down heads or tails, so you never know what is going to come next.

【解答】

しかし、正解を言うと、次に現れる文字がHになるのかTになるのか、誰にも皆目見当がつかないのである。というのも、HとTが表しているのは、連続してコインを投げたときの表と裏だからである。表と裏の出方に偏りのない硬貨では、それまでの結果の並び順がどうであるのかと無関係に、表が出る確率も裏が出る確率も50%なので、次に現れる面がどちらになるのかまったく分からないのである。

【基準】

部分	配点	備考
However ~ T	5点	no...have the faintest idea を「分かる」としたものは、マイナス3点。 letter を「手紙」としたものは、マイナス2点。
The reason ~ tosses	5点	heads and tails が「頭と尾」など文脈に合わないものは、マイナス3点。 in a sequence of coin tosses が文脈に合わないものは、マイナス3点。但し、「コインを投げた結果 (consequence との混同) の」などは可とする。
Whatever ~ next	5点	a fair coin は、どの点で fair なのか分からない訳出は、マイナス3点。 chance を「機会・チャンス」としたものは、マイナス2点。 what is going to come next の what は H や T の記号を指すので、「~こと」とした訳出は、マイナス3点。

(2) (15点)

【設問】

Try it, and you will see that either H or T will establish a decent lead, and will maintain that lead for much of the game. It is very unlikely that the difference

between Hs and Ts will crisscross around zero for the whole game, which is what you would probably expect from a random trial.

【解答】

実際にコインを投げてみれば，表（H）か裏（T）のいずれか一方がもう一方を十分に引き離し，コイン投げを続けている間，長いこと優位を保つことが分かるだろう。無作為の試行では，表（H）の出る回数と裏（T）の出る回数の差は，初めから終わりまでの間，ゼロに近いところで何度も上下すると人は考えるだろうが，実際には，そうなる可能性は非常に低いのである。

【基準】

部分	配点	備考
Try ~ game	7点	see を「見る」などとしたものは，マイナス2点。 establish a decent lead の訳出が文脈に合わないものは，マイナス3点。 the game を「(その)ゲーム」としたものは，マイナス3点。
It ~ trial	8点	crisscross around zero の訳出が文脈に合わないものは，マイナス3点。 which の先行詞を取り違えたものは，マイナス3点。 random trial の訳出が文脈に合わないものは，マイナス3点。

(3) (20点)

【設問】

Even if the outcomes were due to chance alone, you would see very long periods in which some traders performed better than others, and some football managers became icons*, while others faced the sack*. The oldest saying in football is that “luck evens out over a season.” It doesn't in football, any more than it does in the rest of our lives.

(注) *icons = objects of admiration *faced the sack = got dismissed

【解答】

結果が100%偶然によって決まる場合であっても，非常に長い期間で見たときには，一部のトレーダーが他のトレーダーよりも多くの利益をあげたり，一部のフットボール監督が賞賛的となる一方で，首を切られる監督が出てくるようなことが起こる。フットボール界にもっとも古くから伝わる格言に，「ワンシーズンを通してみれば，運のおかげで試合結果は五分五分になる」というのがある。実際には，運のおかげで，フットボールの試合結果が五分五分になることはない。それはちょうど，運のおかげで，結果が残りの人生で五分五分になることがないのと同じである。

【基準】

部分	配点	備考
Even ~ sack	10 点	see very long periods in which ~ を「 ~する長い期間を目にする」など逐語訳したものは、マイナス 3 点。 while が「対比」の訳になっていないものは、マイナス 3 点。
The oldest ~ season	5 点	saying の誤訳は、マイナス 2 点。 luck evens out の訳出が「運は平ら（イーブン）にする」など稚拙なものは、マイナス 3 点。
It ~ lives	5 点	it doesn't は「それは、そうではない」も可。但し、前後の和訳から luck doesn't even out の意味に取れないものは、マイナス 3 点。 not...any more than ~ を主客逆転し「...でないのと同様、 ~ではない」としたものは、マイナス 3 点。 the rest の誤訳は、マイナス 2 点。

第3問

(1) (25点)

【設問】

あるサッカーの監督が、日本人は自らの失敗から多くを学んでいるという趣旨のことを言っている。 サッカーファンならずとも、監督の発言に賛成する人は多いことだろう。

しかし、だからと言って、常に負け組になる必要はないと思う。 歴史を見れば、失敗の例と同じ数だけの成功の例があるものだ。 だから、過去の経験から教訓を引き出すとすれば、自らの成功からだって同様に多くのことを学ぶことができるはずだ。

【解答例】

(A) A soccer coach says something to the effect that Japanese people learn much from their own failures. Probably many people will agree with him, including those who are not soccer fans. I don't think, however, that you always have to be a loser to learn something. History tells you that there are as many examples of successes as there are of failures. So if you want to draw lessons from experiences, you will surely learn as much from your own successes.

(B) A manager of a soccer team made a remark which meant Japanese learn a lot from their failures. Even if you have no interest in soccer, you will agree with this manager's remark as many of us do. However, I think it doesn't necessarily mean that you always need to be a loser. When looking back on[in] history, you can see that our cases of success and failure are equal in number. Therefore, if you are to learn lessons from your experiences in the past, you should be able to learn a lot from your successful experiences as well.

【基準】

部分	配点	備考
あるサッカーの監督が、日本人は自らの失敗から多くを学んでいるという趣旨のことを言っている。	5点	「あるサッカーの監督」：a (certain) football coach[manager]なども可。director, supervisor は不可。 「日本人は自らの失敗から多くを学んでいる」：「学んでいる」に study や、進行形は不可。 「～という趣旨のことを言っている」：「言っている」に進行形は不可。
サッカーファン	5点	「サッカーファンならずとも～人は多いことだろう」：逐

<p>ならずとも，監督の発言に賛成する人は多いことだろう。</p>		<p>語的に many people, (even) if (they are) not (among) soccer fans や not only soccer fans, but many other people としたのも可。また，will または probably のないものは，不可。</p> <p>「監督の発言に賛成する」: be in favor of what he says[his remark, statement, comment]も可。</p>
<p>しかし，だからと言って，常に負け組になる必要はないと思う。</p>	5点	<p>「負け組になる」: be on the losing side なども可。</p> <p>「必要はないと思う」: I think (that)...not も可。</p>
<p>歴史を見れば，失敗の例と同じ数だけの成功の例があるものだ。</p>	5点	<p>「歴史を見れば」: Looking back on[at, in, over, to] history や Historically speaking なども可。</p> <p>「失敗の例と同じ数だけの成功の例がある」: there is 構文を用いた場合，2つ目の as の後に，of のないものは不可。there are はなくても可とする。</p>
<p>だから，過去の経験から教訓を引き出すとすれば，自らの成功からだって同様に多くのことを学ぶことができるはずだ。</p>	5点	<p>「過去の経験から教訓を引き出すとすれば」: 仮定法を用いたものは不可。「～から教訓を引き出す」を単に learn from としたのも可とする。</p> <p>「自らの成功からだって同様に多くのことを学ぶことができるはずだ」: 「～できるはずだ」は，it is no wonder that...can や can[may] surely[well]なども可。「同様に多く」は as much も，much...as well も可。</p>

(2) (25 点)

【設問】

タイムマシンに乗ってどこへでも好きなところに行けると仮定してみよう。 あなたなら自分の未来と過去とどちらに行ってみたいと思うだろうか？ 私は欲張りな人なので、どちらにも行ってみたいと思う。 そして、これなら間違いなく、すべてが心に思い描いた通りになると思えるまで、過去の私の暮らしぶりに修正の手を加えることをやめないだろう。 問題は、果たしてそれで幸せになれるものなのかどうかだが、それは見てのお楽しみだ。

【解答例】

(A) Let's suppose a time machine could take you anywhere you want. Is it your future or past that you would want to go to? Since I'm the type of person who wants to have my cake and eat it too, I'd want to visit each of them. And I'd continue to change[modify] my way of living in the past until I see that everything works[goes] exactly as I imagine[expect]. You may doubt if[that] it would really make me happy[bring me happiness], but just wait and see. Time will tell.

(B) Let's say you can go anywhere your heart desires on[in] a time machine. If you could choose between your future and[or] your past, where would you want to go?

Greedy person that[as] I am, I want to visit both. Then, I would keep correcting the way I lived (my past) until I can convince myself that the future will be picture-perfect. The question is: Will I be happy then? Only the future knows.

【基準】

部分	配点	備考
タイムマシンに乗ってどこへでも好きなところに行けると仮定してみよう。	5点	「タイムマシンに乗って」: by using a time machineなども可。 「～と仮定してみよう」: Suppose (that)...なども可。節内は、直説法でも仮定法でも構わない。
あなたなら自分の未来と過去とどちらに行ってみたいと思うだろうか？	5点	「自分の未来と過去とどちらに」: 「どちらに」を which...to や where を用いて表す場合は、1文でなく、Where would you like to go? To your future or to your past?と2文にしても可。これを無理に、Where would you like to go, to your future or to your past?などとしたものは不可。

<p>私は欲張りな人なので、どちらにも行ってみたいと思う。</p>	<p>5点</p>	<p>「私は欲張りな人なので」: Because[As] I am a greedy person や , Greedy[Excessively desirous] as I am も可。</p> <p>「どちらにも行ってみたいと思う」: 「どちら」は , either (of them)も可。</p>
<p>そして、これなら間違いなく、すべてが心に思い描いた通りになると考えるまで、過去の私の暮らしぶりに修正の手を加えることをやめないだろう。</p>	<p>5点</p>	<p>「これなら間違いなく～と思える」: be sure[convinced] (that) ~ , make sure[certain] that ~なども可。</p> <p>「すべてが心に思い描いた通りになる」: 視点を変えて , I can have it all.なども可。</p> <p>「～まで、...をやめないだろう」: it is not until ~ that...の形式も可。直説法でもよいが、推量の will や probably などのないものは不可。</p> <p>「過去の私の暮らしぶりに修正の手を加える」: 「過去の暮らしぶり」は , the way I lived (my past (life))も可。</p>
<p>問題は、果たしてそれで幸せになれるものなのかどうかだが、それは見てのお楽しみだ。</p>	<p>5点</p>	<p>「問題は、～かどうかだ」: the question[problem] is whether ~なども可。「果たして」は無視しても可。</p> <p>「それは見てのお楽しみだ」: Just wait until you see it. / Let ' s look forward to seeing it. / Let ' s wait and see.など。断言を避ける機能を優先させた訳として、We never know what might happen in the future.なども可。</p> <p>次のような場合、前・後半を内容上自然につなぐため、下線部のように語句を補ったものも可。</p> <p>・ You may doubt that it would really bring me happiness. But <u>who knows what it feels like?</u> So let ' s look forward to seeing it.</p>

第4問

セクション2

【設問&解答例】*配点は各5点

(1) When did the controversy over cloning start?

It started when a (Scottish) scientist created a clone of a sheep(, Dolly, in 1996).

(別解) **It started in 1996.**

(2) What is the life span of most sheep?

It is (about) 12 years.

(3) What kind of debate was generated by Dolly's death?

Her death generated a debate about the health and life expectancy of cloned animals.

(4) What do many scientists think of cloning human beings?

They think it's possible to clone a human being (with the same technique).

(別解) **They think it is a matter of time before someone achieves it.**

(5) What is the purpose of cloning research?

It is to improve human lives.

【読み上げ文&全訳】*下線部は該当箇所

The issue of cloning has caused much controversy (1)ever since a Scottish scientist, Dr. Ian Wilmut, created a clone of a sheep, Dolly. She was the first mammal to be cloned from an adult cell in the world. After 277 attempts, she was born to a surrogate sheep mother (1)in 1996.

Dolly had appeared normal, but (2)at the age of six, she suffered from lung disease caused by a virus and she passed away. Considering that (2)most sheep live to twice this age, (3)her death generated a debate about the health and life expectancy of cloned animals. Cloning experts say it is important to know whether her death was related to cloning technology. Dr. Wilmut doesn't think her death was related to the technology but he admits that the cloning technique is insufficient.

However, (4)many scientists think it's possible to clone a human being with the same technique, and it is just a matter of time before someone achieves it. Big advances in cloning research have spurred major hope, but also have created major concerns. It is

always an ethical issue when we talk about human cloning. (5)The purpose of cloning research is to improve human lives and this research shouldn't be abused.

Cloning is a delicate issue that must be handled carefully. The issue will probably not have a final solution any time soon. Needless to say, cloning is a very important topic, as it is a frequent discussion among politicians, scientists, the media, and the general public.

(1) スコットランド人の科学者、イアン・ウィルムット博士がクローン羊のドリーを創って以来、クローンの問題は大きな論議を呼んでいる。彼女(ドリー)は大人の細胞からクローン化された世界で初の哺乳類である。277 回の試みの後、(1) 1996 年にそのクローン羊は代理母羊の下に生まれた。

ドリーは正常に見えたが、(2) 6 歳の時、彼女はウイルスによる肺病にかかり、この世を去った。(2) たいていの羊がその二倍生きることから考えて、(3) 彼女の死はクローン化された動物の健康と平均寿命についての物議をかもした。クローンの専門家は彼女の死がクローン技術に関連しているかどうかを知ることが重要であると述べている。ウィルムット博士は、彼女の死はクローン技術に関係ないと考えているが、その技術は不完全であると認めている。

しかしながら、(4) 多くの科学者は同じ技術で人間のクローンを作ることは可能であり、誰かがそれを実現するのは単に時間の問題だと考えている。クローン研究が大いに進歩したことは、大きな期待を抱かせたが、また、大きな懸念も生み出した。人間のクローン化について話すときには、それは常に倫理の問題となる。(5) クローン研究の目的は人間の暮らしを向上させることであり、その研究は乱用されるべきではない。

クローン化は確かに注意深く扱わなければならない繊細な問題である。この問題には最終的な解決方法が見つからないであろう。言うまでもなく、クローン化は政治家、科学者、メディア、一般大衆の間でしばしば起こる議論であり、大変重要な議題である。